

<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）は、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、全国の大学・美術大学と連携し日本画を学ぶ学生・卒業生に発表の場を提供しています。この企画は、日本画を志す若手作家の育成と共に、各地域の文化芸術の支援活動を通じてあいおいニッセイ同和損保の活動指針である「地域密着」を具体化する取り組みです。2025 年は 9 校が参加し、若手日本画作家がそれぞれの作品を発信するロングラン企画（2 月～8 月）で、今回は 4 月 12 日（土）から「東北芸術工科大学大学院 3 人展 石黒 光×荻荘 天馬×戸田 創史」を開催します。

■展覧会概要

タイトル	『ザ・シンク』 ～第 33 回大学日本画展 <東北芸術工科大学大学院 3 人展 石黒 光×荻荘 天馬×戸田 創史>～
会 期	2025 年 4 月 12 日（土）～4 月 27 日（日） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17:00 まで）【入場無料】
会 場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参加作家	石黒 光（イングロ ヒカル）、荻荘 天馬（オギショウ テンマ）、戸田 創史（トダ ソウシ）
展覧会内容	本展覧会は、東北の大自然のもとに日本画を学び、大学院でさらに制作と研究を進める石黒光、荻荘天馬、戸田創史の 3 人展です。旧作に加えて、本展に合わせて制作された大型の作品群を紹介致します。 展覧会名にあるシンクとは、私たちが「同期/sync」であり、山形の地でともに日本画を学びながら、深くシンク「考える/think」してきたことを示唆しています。3 人の作品が一堂に並ぶことで、共鳴し、シンクロする様は、タイトルの名に相応しい空間になることでしょう。また、「シンク」という言葉の持つ鋭利な音の響きは、水や膠・岩絵具・箔などの水性で、金属や鉱物的なマテリアルを想起させつつ、伝統的な画材を使いながらも、現代的な表現として確立しようと模索する、自分たちのありかたを提示しています。 150 号以上の作品 4 点、100 号以上 3 点、80 号～0 号 10 点前後展示予定です。
主 催	東北芸術工科大学
企 画	UNPEL GALLERY
協 賛	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・渡邊）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

■作家プロフィール

戸田 創史 Toda Soushi

山形県出身

2024 年 東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース卒業

2024 年 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻絵画研究領域在籍中

『アマダレ 2024 石黒光・荻荘天馬・戸田創史』画廊翠巒

『dadacha 東北芸術工科大学大学院日本画四人展』

銀座スルガ台画廊

【賞歴】

2021 年 『HOT サンドルプロジェクト島アートコンテスト』最優秀賞

2023 年 『東北芸術工科大学卒業/修了制作展』優秀賞

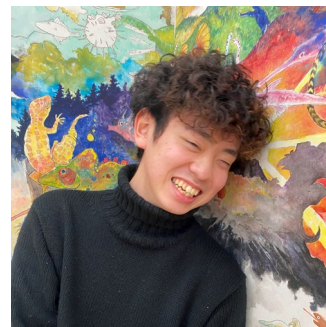
2024 年 月刊美術主催『美術新人賞デビュー2024』入選

公益財団法人 日本文化芸術奨学金財団 29 期生 採択

リキッテクス主催 スクエアアートコンペ 中村桂子賞

【コメント】

様々な国を訪れ、絵を描いています。ドローイングを主軸に、色と形のイメージを再構成し、絵画制作をしています。去年はオーストラリア、ニュージーランドを見て周り、今年はギリシャとドーハに行く予定です。描くことに対する人間的欲求を、国や枠組を超えて体現していこうと考えています。



「濠太刺利・悉尼巡礼・真夏の雪編」
2024 制作 1167×910mm
生地、岩絵具、アクリル絵具、綿

荻荘 天馬 Ogisyo Tenma

宮城県出身

2024 年 東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース卒業

2024 年 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻絵画研究領域在籍中

『アマダレ 2024 石黒光・荻荘天馬・戸田創史』画廊翠巒

『一途なモグラは空を飛ぶ荻荘天馬・齋藤大・渡部信隆』

最上川美術館

【賞歴】

2021 年 『東北芸術工科大学 進級制作展』優秀賞

2023 年 『東北芸術工科大学卒業/修了制作展』優秀賞

【コメント】

制作の始まりはいつも写生から始まっています。現地に赴き自分の足と手と体で体感したリアリティが作品の全てにつながってくると感じています。写生は直感的に描き、その描く対象にある本質を引き出せる作品を探究しています。



「不忘山」
2024 年制作 1620 × 970 mm
和紙、墨、岩絵具、水干絵具、銀箔

■作家プロフィール

石黒 光 Ishiguro hikaru

山形県出身

2024 年 東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース卒業

2024 年 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻絵画研究領域在籍中

個展『witch craft』haco-art brewing gallery-(東京)

『Emerging Echoes:Presenting Realism』

GalleryCOLORBEAT(韓国・ソウル)

『第9回石本正日本画大賞展』浜田市立石正美術館(島根)

『ART FAIR ASIA FUKUOKA 2024』福岡国際センター(福岡)

【賞歴】

2023 年 『日本交通文化協会第44期国際瀧富士美術賞』優秀賞

『東北芸術工科大学卒業/修了制作展』美術科賞

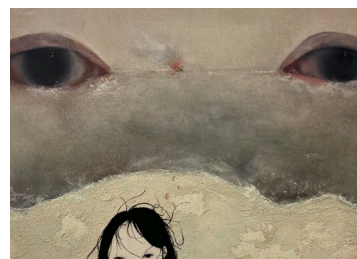
2024 年 『令和5年度米沢市芸術文化協会賞』文化奨励賞

『第9回石本正日本画大賞展』特別賞 日本海信用金庫理事長賞

公益財団法人日本文化芸術奨学金財団 29期生 採択

【コメント】

ものをつくることは、痣をつくるようなことだと思います。精神の蟠りを物質へ、物質からのギフトは精神へ、相互作用されます。私はただ、本当に小さな史を、そよ風が靡くところにこっそり置いているだけです。



「海は私のものだと思っていた」

2024 年制作 380×510mm

綿布、膠、砂、岩絵具、水干絵具